

吹奏太郎



Toshogu



Tochigi



Tochiotome



Ooruri



目 次

- ★ 巻頭言 1
「オリンピック競技が注目される一方で、吹奏楽は後れをとってはいませんか？」
栃木県吹奏楽連盟副理事長 三橋 英之
- ★ 1. 楽曲講習会の報告 2
- ★ 2. 令和元年度 東関東吹奏楽連盟マーチング講習会・発表会の報告 2
ザ・ワールド・オブ・プラス 2019 in ひたちなか
- ★ 3. 第 25 回 東関東バンドセッション 及び 2
第 20 回 東関東選抜吹奏楽大会に参加しての感想
芳賀地区小学生選抜バンド 小島 莉暖
指揮者 有馬 大志
佐野市・足利市地区高校生選抜バンド 指揮者 有馬 聖元
- ★ 4. 第 25 回 東関東吹奏楽コンクールに参加しての感想 3
小学生の部 茂木町立茂木小学校吹奏楽部 顧問 涌井 紀子
中学校の部 B 部門 宇都宮市立若松原中学校吹奏楽部 顧問 島田 洋暁
中学校の部 A 部門 真岡市立真岡中学校吹奏楽部 部長 三村 海斗
高等学校の部 A 部門 作新学院高等学校吹奏楽部 チーフ顧問 三橋 英之
- ★ 5. 第 25 回 東関東マーチングコンテストに参加しての感想 5
壬生町立南犬飼中学校吹奏楽部 3年 関 結夏
- ★ 6. バンド活動の工夫 ～少人数での時間短縮練習を通して～ 6
日光市立落合中学校吹奏楽部 顧問 蘇武 柄利
- ★ 編集後記 8
栃木県吹奏楽連盟広報部 沼尾 和子

「オリンピック競技が注目される一方で、吹奏楽は後れをとってはいませんか？」

栃木県吹奏楽連盟副理事長 三橋 英之

2020年東京オリンピックの開催まで1年を切ってきました。多くの競技でオリンピックへの出場権を獲得したり、出場の内定を勝ち取った選手が出ています。自国開催を楽しみにしている人たちも大勢いることでしょう。

近年オリンピックで実施される競技の中で、とりわけ卓球・バドミントン・ボルダリングなどの活躍がめざましく、連日マスコミを賑わしています。メダル獲得への有望株としても人気上昇しているばかりか、これらの競技への関心は極めて高く、卓球部やバドミントン部への加入生徒が増え、スポーツクラブではボルダリング人気が高まっていると聞きます。また、今まさにラグビーのワールドカップが日本で開催されており、ラグビーも脚光を浴びています。すでにサッカーの人気は定着しており、バスケットもプロ化し、一定の成果を挙げています。本県のプロバスケットチーム「宇都宮ブレックス（今年度より栃木ブレックスに改称）」はその好例です。

それに引き替え、甲子園は相変わらず熱気を帯びてはいますが、高校野球の人気にやや陰りが見られます。加入人数が減少傾向に転じています。ボール一つあれば簡単にプレーできる他の球技と比べ、硬式野球はルールが複雑で、プレーするのも難しいというイメージがあるようです。また、投手の肘や肩の故障が問題となっており、高校野球では投手のけが防止の観点からタイブレーク制が導入されています。大谷翔平選手のようなスーパースターが現れてはいますが、競技人口の増加のためや選手の育成という観点からも復権に向けて危機感を抱いているようです。

文化部では、とりわけ吹奏楽部の練習時間が長すぎるとして、「ブラック部活」などと揶揄されています。小学校では、現場の教師は指導に関われない市町村が増えており、宇都宮市内の小学校では随分前から外部の指導者による活動を余儀なくされ、コンクールに出場する団体がほとんどなくなってしまいました。

その時々で、注目されるスポーツ（文化部の部活動も含めて）が変化するのはやむを得ないことですが、少子化の時代にあっては競技間でただ単に人の取り合いをするのではなく、それぞれの競技の楽しさを伝えたり、子どもたちが自分の適性にあったものを自由に選択できるように工夫したり、競技の実態に合った育成のプログラムや指導者の育成などを早急に考えていく必要があるのではないかと考えています。野球人気に危機感を抱いたサッカー協会がプロ化し、育成のシステムを構築し、成功したように…。

吹奏楽部の所属人数は減少しており、コンクールへの参加団体も減少傾向にあります。結果を追い求め金賞を取ることも大事ですが、それぞれの実態に合った楽しく、充実感や達成感が味わえ、人間的成長が期待できる活動が求められているのではないのでしょうか。ガイドラインに沿った中で、いかに意義ある活動を展開させるかを指導者が求められています。千葉県柏市立柏高校を長く指導されている「石田修一氏」は短時間で効果的な活動方法を紹介し、周辺の学校ではそれを実践し、成果を挙げている例が報告されています。吹奏楽の活動を楽しみにする子どもたちのためにも、我々指導者は今一度活動のあり方を考え直さねばならないのかもしれないです。そうでないと吹奏楽という音楽のひとつのジャンルが廃れてしまいます。

私は演奏の機会には、できるだけ多くの小さい子どもたちに楽器に触れ、音を出してもらおうようにしています。宝島などの曲に合わせ、タンバリンやマラカスなどを持って、いっしょに演奏してもらおうのです。子どもたちはとびきりの笑顔で、楽しんでくれている様子がわかります。やがて吹奏楽部に加入してもらおうことを期待してのことです。吹奏楽も子どもたちの勧誘・育成と指導者の育成は急がねばならないのです。

1 楽曲講習会の報告

令和元年5月2日(木祝)実施 会場：宇都宮市文化会館
講師：大井 剛史氏(東京佼成ウインドオーケストラ正指揮者)
モデルバンド：作新学院高等学校吹奏楽部
使用曲目：バンドのための民話
マーチ「エイプリル・リーフ」(令和元年度課題曲Ⅱ)
行進曲「春」(令和元年度課題曲Ⅲ)

昨年度から課題曲以外の曲も取り入れた講習会になり、今年は「バンドのための民話」を取り上げました。懐かしい曲ですが、改めて取り組んでみると新たな気づきがあり、楽曲の解釈・分析の奥深さを再認識しました。

2 令和元年度東関東吹奏楽連盟マーチング講習会・発表会の報告

ザ・ワールド・オブ・プラス 2019 in ひたちなか
令和元年5月6日(月祝)実施 会場：国営ひたち海浜公園

栃木県からは、栃木市立大平中学校と青藍泰斗高等学校が出場しました。ネモフィラの咲き誇る広大な国営公園の会場において、大勢の来場者の中で見事なパレードやドリルを披露しました。

3 第25回東関東バンドセッション2019及び 第20回東関東選抜吹奏楽大会に参加しての感想

令和元年6月8日(土) 街中コンサート 会場：アシコタウンあしかが
公開リハーサル 会場：足利市民会館
令和元年6月9日(日) 東関東選抜吹奏楽大会 会場：足利市民会館

街中コンサートでは、足利市立毛野中学校、佐野市立北中学校、作新学院高等学校が演奏しました。会場がショッピングモールの一角だったこともあり、訪れた方が気軽に音楽を楽しむ温かい雰囲気にもまれた楽しいコンサートでした。

「総勢61名、気持ちを一つに」

芳賀地区小学生選抜バンド 小島 莉暖

私たち芳賀地区小学生選抜バンドは今回の大会のために、真岡小・真岡東小・真岡西小・大内東小・長沼小・益子小の6校から61名が集まり結成されました。学校同士が離れているため全体練習の時間が十分に確保できずに苦労することもありましたが、本番では、会場のみなさんと1つになってノリノリで楽しく演奏することができました。金賞、準グランプリを頂くことができ、本当に嬉しい気持ちでいっぱいです。貴重な経験をありがとうございました。

「横のつながり」

芳賀地区小学生選抜バンド 指揮者 有馬 大志

芳賀地区で小学生の選抜バンドを作る、という話が決まったとき、「どのようにメンバーを募集し、練習を開催しようか」、「練習会場の用意や参加するために必要な物の用意はどうしようか」など様々な問題が浮かびました。

しかし、各校の先生方や熱心な各校の保護者の心強いバックアップのおかげで、滞りなく用意が整い、安心して本番を迎えることができました。これを機にさらに芳賀地区でのバンド同士の「横のつながり」が強くなり、切磋琢磨しながら、よりよい音楽活動が展開されることを期待しています。ご協力頂いた多くの皆様に感謝申し上げます。

「第20回東関東選抜吹奏楽大会に出場して ～生徒たちの成長～」

佐野市・足利市地区高校生選抜バンド 指揮者 有馬 聖元

まず、このような大きな大会が地元足利市で開催されるということ、そしてこのような場で演奏できるということに大変喜びを感じ、本番を楽しみにしていました。

佐野市・足利市の選抜バンドは足利大学付属高等学校を中心に、佐野日本大学高等学校・白鷗大学足利高等学校・佐野高等学校の4校で結成しました。

本番に向けた練習は2回のみでしたが、限られた時間の中で生徒たちが積極的にコミュニケーションを取り親睦を深め、一生懸命練習に取り組んでくれたので、良い雰囲気でも本番を迎えることができました。「ノートルダムの鐘」も「かっぱれ佞武多」も指揮を振っていて凄く楽しかったです。

この本番一度きりのバンド、生徒たちにとってお互いの実力や、練習環境などを知ることができ、良い経験、良い刺激になったことと思います。生徒たちはこれを機に連絡を取り合っているようです。この一期一会の出会いが生徒たちの成長を促進させているのではないかと思います。



4 第25回東関東吹奏楽コンクールに参加しての感想

令和元年9月7日(土)・9月8日(日)	高等学校の部A部門 中学校の部A部門 会場：ザ・ヒロサワ・シティ会館
令和元年9月14日(土)・9月15日(日)	高等学校の部B部門 小学生の部 会場：千葉県文化会館
令和元年9月21日(土)・9月22日(日)	中学校の部B部門 職場・一般の部 大学の部 会場：よこすか芸術劇場

「東関東吹奏楽コンクールに出場して」

茂木町立茂木小学校吹奏楽部 顧問 涌井 紀子

今年、3年連続東関東吹奏楽コンクールに出場することができ、ほっと胸をなで下ろしています。茂木小学校としては、初めて銀賞をいただきました。

今年のコンクールに選んだ曲は「森の贈り物」。この曲を聴いたとき、「あの子ならこう演奏するだろうな。」と、次々に演奏する子ども達の顔が浮かんできました。難易度の高いこの曲を選び、初めは譜読みで大変苦労しました。「果たして曲が仕上がるのだろうか。」と悩んだ時期もありました。しかし、やはり柔軟で吸収力の高い子ども達。練習を重ねるにつれて、曲を初めて聴いたときのイメージのように演奏がどんどん輝いてきました。

東関東吹奏楽コンクールの前日は、運動会。体力的にも日程的にも、決して万全とは言えない状況で迎えた本番でした。思うようにできず涙した所もありますが、一音一音に心を込めて演奏することができたと思います。



頑張った子ども達、サポートしてくださった保護者の皆さん、応援してくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

「東関東吹奏楽コンクールに参加して」

宇都宮市立若松原中学校吹奏楽部 顧問 島田 洋 暁

今回の東関東大会は、私にとって「6年ぶりの東関東大会への出場」「大会参加のための宿泊は約20年ぶり」そして「初のおよそか芸術劇場での演奏」でした。

代表選考会の審査結果発表で県代表校に決定し、部員たちの涙ながらに喜ぶ様子を近くの席から見ていた時には、これまでの苦労を忘れ部員たちとともに大喜びでした。しかし、翌日からは喜んではばかりはいられません。経験したことのないホールの利用は、大会要項を見ても今ひとつイメージが湧きません。それに加えて、よこすか芸術劇場は大変立派なホールであると同時に、商業施設や公共の施設を併設する大きな建物の中にあるため、制約が多く駐車場もありません。実施要項を読み進めるごとに、部員たちが余計なストレスを受けることなく、納得できる演奏をさせてあげられるか不安が積もるばかりでした。

そのような時、頼りになる存在だったのがこれまで東関東大会に数多く出場されている先生方でした。「会場の様子」「細かな準備物」「宿泊予約や宿泊地」「部員が心がける点」など、要項だけではわからないことを教えていただき、出発前日までに全ての不安を解消することができました。おかげさまで、生徒たちは十分に実力を発揮できたようです。

本番が前半の部の中間だったため、他校の演奏は2団体しか聞くことができませんでしたが、前半終了後は、横浜中華街で少し遅い昼食をいただきました。緊張から解放された部員たちは、笑顔で美味しい中華料理を頬張っていました。

今後、多くの若い先生方が東関東大会の舞台に立つことでしょう。その時には、安心して部員を引率し、部員が最高の演奏ができるよう、ぜひベテランの先生方を頼ってほしいと思います。小さな不安や確認漏れが当日の慌ただしさにならないことを祈っています。

「3年目で叶えられた夢」

真岡市立真岡中学校吹奏楽部 部長 三村 海 斗

私たち真岡中学校吹奏楽部は、9月8日に行われた東関東吹奏楽コンクールに出場しました。毎年「東関東大会に出場すること」を目標に掲げて練習に励んできましたが、なかなか思うような結果が出せませんでした。今年は、練習時間が少なくなり、曲の完成度がなかなか上がり苦勞しましたが、県大会では、落ち着いて練習通りに演奏することができました。

表彰式で金賞をいただき、「代表」と言われた瞬間は、今までの様々な努力が報われて胸がいっぱいになりました。

東関東大会に向けて、新たなスタートとなる反省会で先生がおっしゃった言葉は、「私たちには責任がある。栃木県代表になったからには、選ばれなかった学校の分まで最高の演奏をしよう。」これを聞き、新たな目標に向けて気持ちが引き締まりました。

東関東大会が行われた会場は、初めて演奏するホールだったのでみんな緊張しましたが、私たちにできる最高の演奏を届けることができ、一生忘れることのできない本番になりました。結果は銀賞でしたが、東関東のレベルの高さを改めて実感することができました。

この大会に出場できたことは、私たちにとって大きな経験になりました。お互いに高め合える仲間、指導して下さる先生方、そして応援してくれる家族のありがたさの中で音楽ができる喜びを改めて感じました。最後に、この



ような機会を与えていただいたことに感謝するとともに、真岡中学校吹奏楽部を誇りに思います。

「第25回東関東吹奏楽コンクール高等学校の部A部門に参加して思うこと」

作新学院高等学校吹奏楽部チーフ顧問 三橋 英之



私が出場した東関東吹奏楽コンクール高等学校の部A部門は多くの強豪校が存在し、全国の支部の中で最もハイレベルな大会だと言われています。名古屋国際会議場で演奏するためにどこまで演奏を仕上げればこのステージに立てるか誰にもわかりません。それでもコーチや部員と試行錯誤しながら努力を続けていくしかないと日夜練習に励んで来ました。最上級生がこれまでで一番多い今年のチームは例年になく演奏力が上がり、手応えを感じていましたが、夢は叶いませんでした。これまで部員がコンクールの結果に涙する光景を何度も見てきましたが、今年も同じ思いをさせてしまったことに指導者として申し訳なく思いました。大勢の親御さんたちも応援に駆けつけてくれていましたが、結果にがっかりされたことを思うといたたまれませんでした。もちろん、望んでいるとおりに好成績を挙げた方が良いとは思いますが、また別の意識が以前にも増して芽生えてきています。

結果は大事だが、その間の過程が満足のいくものであるならば、悔しさは残るものの切り替えも早くできるのかなということです。本番中の演奏はたった12分ほどですが、このステージのために何倍もの時間や労力をかけます。結果は残酷であっても、舞台上では緊張感を感じつつも演奏を楽しんでいる自分たちがいます。実際は12分というとても短い時間ですが、とてつもなく長い時が流れ、よりよい音楽作りのために考えてきたことが次々に思い出され、曲の中に入り込んでいる自分に気づかされます。これまで作り上げてきたものを出し切っているからこそこの感覚だと思います。演奏後の部員たちの表情からも達成感のようなものを十分に感じ取ることができました。表彰式後ほとんどの生徒が目赤腫らし、悔しさがにじみ出ていましたが、バスに戻ると県大会からこれまでやり抜いたという充実感に満ち溢れた表情に変わっていたように感じられました。

コンクールに出場するからには全国大会に行きたいという目標も大切です。しかし、コンクール至上主義に偏らないバランス感覚を考えた、文字通り活動するのが楽しくて仕方がないと思える部活動に成長できたことがこのような振る舞いに繋がったのではないかと考えています。このコンクールを通じて同時に感じた「悔しさ」と「充実感」という相反する複雑な感情はこの後の人生に大いに肥やしになることでしょう。確実にコンクールは人を育てるのです。

5 第25回東関東マーチングコンテストに参加しての感想

令和元年10月6日(日) 会場：小田原アリーナ

「South Wind 2019」

壬生町立南犬飼中学校吹奏楽部 3年 関 結夏

私たちはこの東関東マーチングコンテストで金賞をとることを目標に、夏の暑さにも負けず練習に励んできました。練習では、うまくできなくて悩んだこともたくさんありました。そんな時は先生に相談をしてアドバイスをもらったり、仲間と協力し合ったりして乗り越えてきました。

当日の朝は雨が降っていて、実際の大きさのフィールドで練習ができないまま大会に向かいました。しかし本番では今、私たちができる最高の演技をすることができました。カンパニーフロントで前進しているときに見た景色は、私たちにとって忘れられないものとなりました。

演技が終わったあとの記念撮影。県大会ではミスをしてしまった悔しい思いもあり、ぎこちない笑顔でしたが、

東関東大会は全員が最高の笑顔で写真を撮ることができました。結果は銀賞と目標に届きませんでしたが、全てを出し切った最高の演技ができたので良かったです。また、私たちが目標としていた金賞を受賞した学校の演技を見て、自分たちとのレベルの差を身をもって感じました。演奏の技術や表現、動きのキレやシンクロ性などすべてにおいて、私たちも含め会場にいたお客さん全員を魅了していました。その演技に感激するとともに、改めてマーチングの魅力を知ることができました。

ここまで私たちが頑張ってきたのは指導してくださった顧問の先生やマーチングの先生、バトンを教えてくださった先輩、私たちを支え応援してくださった方々のおかげです。本当にありがとうございました。

6 バンド活動の工夫

「少人数での時間短縮練習を通して」

日光市立落合中学校 蘇 武 柄 利

1. はじめに

本校吹奏楽部は、1年生5名、3年生6名の計11名で活動しています。私は顧問を務めて6年目になります。これまでも決して大人数バンドではありませんでしたが、昨年度新生が入部せず、部員が14名になったことで少人数への危機感をもち始めました。また、練習時間については、2年前から本校の全ての部が週休2日制を取り入れており、水曜日と土日のどちらかを休養日にしています。その土日は3～4時間の練習が基本で、平日の朝の練習は行っていません。

以下の内容は、どの学校でも取り組まれていることだとは思いますが、部員の少なさや練習時間の確保等で悩まれている先生方と共有できればと思い、紹介させていただきました。参考になることがあれば幸いです。

2. 練習の効率化

中学生は部活動が全てではありません。学習時間や家族・友人との時間、心身を休める時間も大切だと思います。効率よく練習するために、次のことを特に意識しました。

(1) 無駄を省く

まずは、練習の無駄を省くことです。時間があつた頃は、多少遠回りだとしても、ゆくゆく意味のある練習であれば行っていました。しかし、今は限られた時間でやらなくてはならないので、基礎練習を厳選しています。ロングトーン、タンギングの練習しか行っていません。ただし、息を使い切ることと吹き方を揃えることを意識しています。そして、生徒たちは、毎日のように練習しているのに一度もうまくいったことがないと感じています。でも、だからこそ、決まった基礎練習を毎日続けることが重要だと分かっているのです。ハーモニートレーニングは曲中で行います。常に声を出して歌うことと、マウスピースで音感を鍛えています。

(2) 課題と練習方法を考えさせる

毎日合奏を行えるわけではありませんし、指導者が一緒に練習できる時間も限られています。また、個人練習やパート練習が多くなると、生徒たちは得意な箇所の練習を中心に行う傾向があります。それなので初めのうちは、合奏で個人練習の箇所を課題として与えたり、練習方法を細かく提示したりします。得意な箇所はほとんど練習しません。けれどそのうちに、自分たちで課題と練習方法を選別できるようになるのです。意味のある練習がどういふものかを理解し、結果的に集中して練習するようになります。

(3) 合奏での約束事を決める

約束事として、次の4つを常に意識させています。

ア「思い切って間違えること」

できないことを隠したり、ごまかしたりしている練習ではなかなか伸びません。間違えてもよい期間を決めて、「指摘されることは良いこと」、「『やりすぎ』は誉め言葉で、自分の音がしっかり伝わっている証拠であること」などと、ポジティブな思考をさせることで間違いを怖がらせないようにしています。

イ「自ら表現すること」

指導者から言われて表現するのではなく、これまでの経験から学んだことを元に、自ら表現させるようにしています。たとえそれが相応しくなくても自らやってみることが、感性を磨くことに繋がると思うからです。自ら考えた表現に対しては、絶対に貶しません。貶したら表現することをやめてしまいます。中学生はまだ音楽の経験値が低いので、同じパターンでしか表現できないこともあります。そういう場合は、合奏の中でどういう音が相応しいと感じるかを確認しながら一緒に探っていきます。また、本番で失敗したことも絶対に責めません。失敗は本人が最もよく分かっています。だから次の練習に繋がりと、良い循環が生まれています。

ウ「音にこだわること」

うまくいった音は記憶して再現させるようにしています。これは演奏者が楽曲に向き合い、吹き方を研究して気付かなくてはできないことなので、指導者として中途半端には褒めません。再現できていなければ、それははっきり伝えて、自分の音に責任をもたせています。

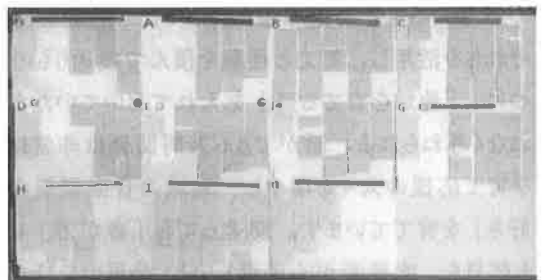
エ「妥協しないこと」

本番直前まで妥協はさせません。「ここまでしかできない」と決めつけないこと。指導者も、「中学生だからここまでだろう」と妥協した練習をするのは生徒に失礼だと思います。その方針を生徒たちに理解してもらい、合奏の指導にあたっています。本番で自分に負けないように追い込む練習は、かなり厳しい方だと思います。

3. 選曲のこだわり

一番の悩みは選曲です。なかなか曲に出会えず、6月になっても決まらないことがありました。私が選曲でこだわっていることは、生徒のモチ味を引き出せることと、飽きない楽曲であることです。本校の生徒はイメージを膨らませることが得意だと感じるので、情景が思い浮かびやすく、数ヶ月向き合うのに相応しい曲を選ぶようにしています。

右の写真のように、曲に対するイメージを練習番号ごとに出し合うこともありました。少人数になり、同じパートの先輩がいないことも不安でしたが、生徒たちはさほど困っていない様子で、パートを越えて教え合ったり、時には卒業した先輩に教えてもらったりしています。



4. OB・OGとの繋がり

毎年、コンクール本番では、打楽器の準備をお願いした保護者の方々が、ステージ袖から見守ってくださっていました。しかし、今年のコンクールでは、あるOBの方から「いつも保護者の皆さんは客席で鑑賞できないから、今回はOB・OGだけで準備します。」という温かい言葉をいただき、人員の手配から全てお世話になりました。それだけでなく、OB・OGの保護者の方々までが、コンクール会場に足を運んでくださったり、帰校後の楽器運搬を手伝ってくださったりしました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。こういった温かい地域での繋がりを、これからも大切にしていきたいと思っています。

5. おわりに（指導者として）

本校吹奏楽部は、聴いてくださる方の心を動かす演奏を目標にしています。私は、教員になってから、「金賞」を目標に掲げたことは一度もありません。賞にこだわらせると、それよりも大切なことが見えなくなってしまうからです。コンクールは、演奏だけでなく、運やタイミングも結果に影響します。だから賞の色は関係なく、懸命に楽曲と向き合い、自分の思いをもって演奏することが大切だと思います。それだけで素晴らしい音楽になります。

音楽は、演奏者だけでなく、聴衆と共に盛り上げるものだと思います。本校の生徒たちは、純粋に音楽を楽しむだけでなく、聴衆を無視してはいけない、演奏者の自己満足で終わってはいけないということを、よく理解しています。私自身、少人数での時間短縮練習を通して気付かされたこと、プラスになったことがたくさんありました。これからも謙虚な姿勢で音楽と向き合い、生徒たちと共に学んでいこうと思います。



編集後記

栃木県吹奏楽連盟広報部 沼尾 和子

以前、広報誌で加盟団体の活動を指導理念と共に具体的に紹介していた時期があります。全ての加盟団体について紹介することは当然無理ですが、他団体の活動を知るのには参考になることがあると思います。今回、働き方改革と少子化の波の中、中学校B部門の最少人数ながら代表選考会に進んだ日光市立落合中学校の蘇武先生に、日頃の活動を紹介していただきました。各団体の実情は様々で、悩みや苦勞も顧問が抱えるプレッシャーも異なります。団体によっては、吹奏楽の経験が無いにもかかわらず顧問にならざるを得ない場合があり、連盟未加入の団体も含めると「移調楽器って何?」という状況もゼロとは言えないようです。

確固たる自分の指導法を持って日々児童生徒と向き合っている方も、かつては他の多くの指導者から学び取りそれらを活用し、努力と経験を積んで幾通りもの道（指導法）を築いてきたのではないのでしょうか。その道のひとつに、「地域を育てる道」を入れておいていただきたいと思っています。地域の顧問同士が、些細な事でも気兼ねなく尋ねられる、話ができる人間関係は非常に大切です。自分の培った指導法を繋ぐことは、周囲に音楽好きを育て応援の人々を増やし、地域の音楽環境の向上にも役立つと思います。私たちは、吹奏楽を通して「音楽好き」を育てています。間違っても「音が苦」にするのは絶対に避けなければなりません。育てる側の顧問同士も部員も、吹奏楽が心底楽しいという思いを持って日々の努力を重ねていく栃木県でありたいものです。

令和最初の広報誌「吹奏太郎」1号の発行にあたり、お忙しいなか原稿をお寄せくださった方々に感謝いたします。ありがとうございました。

《お願い》 原稿の依頼がありましたら、お忙しいとは思いますが是非お書きいただき、期限内にご送付いただけますようお願いいたします。また、団体それぞれの立場や場面からの要望・意見・感想なども、気軽にお寄せください。

